

## 報 告

## 第35回医学情報サービス研究大会 参加記

深井 鮎美

第35回医学情報サービス研究大会（以下、MIS35）が、2018年8月4日（土）～8月5日（日）に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。

参加者は300名と盛況で、記録的な酷暑と相まってまさに今大会のテーマ「夏祭り」がぴったりのアツい雰囲気であった（図1）。



図1 抄録集の表紙は埜納タオ先生。だるまがデザインされたうちわ、おかし、バッグ。

1日目の特別講演は「物語の力をかりて理想の図書館を描く—『夜明けの図書館』制作過程を交えて—」の演目で、漫画家の埜納<sup>ののう</sup>タオ先生と作品協力者である司書の吉田倫子氏が登壇された。漫画『夜明けの図書館』は、公立図書館の司書が主人公で、レファレンス・サービスをメインに、図書館で働く人々の仕事や利用者と

の関わりを描いた作品である。

作中エピソードでは医療・健康サービスを描いた回もあり、相談しにくい、人に知られたくない利用者の心理に応じるための図書館側からの仕掛けなどが描かれている。

- ・レファレンスに込められた利用者の悩み・思い・願いなどをくみ取る主人公を通して、レファレンスは利用者の背景に触れることができる仕事であることを伝えたい。
- ・「ありがとう」と言われるシーンは必ず入れるようにしている。
- ・「図書館っていいな」と思ってもらえる、永く愛される作品を目指している。

など、こだわりや想いをお聞かせいただいた。

先生は本公演前に医学図書館を見学されたそうので、我々が病図協・藤原氏の加古川中央市民病院図書室へも足を運ばれたとのこと。後日のブログでは「なかでも特に気になったのが／ほとんど知られていない病院図書室のお仕事。／どうか漫画にできないかなあ……」<sup>1)</sup>と書かれていました。病院図書室のエピソードが漫画になることがあるかも？！

2日目は参加者が主催するワークショップがあり、済生会図書室連絡会が企画した「ワンパーソンライブラリーの生産性向上を目指して—インバケットゲームを利用したワークショップ—」に参加した。病院図書館の大きさまざまな多くの案件を重要度と緊急度で分類し、限られた時間内でどう処理するかをディスカッションした。細かく設定された病院図書館の組織図はリアルで、ワンパーソンライブラリーでも業務を円滑に進めるためには病院内の人間関

ふかい あゆみ：大津赤十字病院

係が大切だというの大きなメッセージであった。

自身は3度目のMIS参加となったが、これまででは手伝いとしての参加であり、今回初めて自由にじっくりと発表をまわることができた。発表の内容は多岐に渡っており、病院図書館だけでなく、公共図書館や大学図書館の業務を知ることができるのが大変興味深く、勉強になった。テーマの内容は「公共図書館の医療情報サービス」「選書」に関するものが多い印象であった。

大会の抄録集には「医学情報サービス研究大会に参加する目的は、研究発表をすることであり、研究発表をきくこと<sup>2)</sup>とあった。「研究」「発表」というと立派な結論を導き出さなくてはと高いハードルを感じられるが、業績をまとめ

たり、統計をとって分析したことを発表することそのものが目的でもあるのだなと思った。

「Learning from each other」をスローガンに掲げている医学情報サービス研究大会は2018年7月に「情報科学技術協会賞 優秀機関賞」を受賞した(図2)。

最後に、MISでのコミュニケーションから後の業務につながったエピソードを2つ紹介する。

① 初対面の病院図書室担当者に、たまたま前日探していた文献の雑誌BMJ Case Reportsが奈良医科大学にあると教えてもらい、会場にいた奈良医科大学の司書に即座に所蔵確認ができた。

② 滋賀医科大学の司書に地方の医師会雑誌の古い巻の所蔵について尋ねられ、所蔵があると回答したところ、後日、とある公共図書館からの文献複写依頼を取り次いでいただいた。

研究発表を拝聴するだけでなく、懇親会やプログラムの合間に参加者の方々とお話しするのも大変実りがあった。

#### 参考文献

- 1) 桒納タオ. 掲載のお知らせとご報告: ringogumi. [引用 2018-10-24].  
<http://blog.nonoutao.com/article/184121539.html>
- 2) 医学情報サービス研究大会幹事会: Learning from each other! 医学情報サービス研究会をより充実させるために. 第35回医学情報サービス研究大会抄録集. 2018; 85-9.



図2 懇親会会場に輝く表彰状